



Title	癌と人 第2号 目次
Author(s)	
Citation	癌と人. 2
Issue Date	1974-05-01
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/24210
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

No. 2 目 次

所感	1
理事長 釜 洞 醇太郎	
癌と人 — 臨床閑話 —	2
常任理事 芝 茂	
兔の耳は長かった	6
理事 川 俣 順 一	
癌の免疫療法の可能性	10
田 口 鐵 男	
ガンと栄養	12
矢 野 敦 雄	
子宮癌で死なないために	15
那 須 健 治	
レントゲンによる癌の診断と癌の誘発	18
山 崎 武	
ガンと結核 その2	20
加 藤 允 彦	



* 表紙絵解説

「蟹」のいわれ

蟹の絵は阪大微研の川俣教授にお願いして描いてもらったものである。

癌に関係ある学会のシンボルマークに蟹の図案化したものがよく用いられている。

癌と蟹の関係の歴史は遠くギリシャ時代にさかのぼる。ギリシャの医聖ヒポクラテス著述のところどころに、今日私どもがいう癌と思われる記録がある。ヒポクラテスはそれを「カルキノス」と呼んでいる。カルキノスというのは日常一般に用いられていた言葉で、蟹のことである。ヒポクラテスが記述しているという病気（癌）の格好が蟹に似ていたのをそれを呼び名とした。

今日、欧米では日本でいう癌をカルチノーマと呼んでいる。それはカルキノスという言葉からきたもので、両者は同義語である。

ヒポクラテスはカルキノス（蟹）という日常語を純然たる医学語とした人である。癌と蟹の関係はそれ以来続いている。

集団検診雑感	22
中 野 陽 典	
大阪癌セミナーを聞いて	24
藤 田 昌 英	
大阪癌研究会とは	26

編集後記